

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600051		
法人名	特定非営利活動法人 のぞみの里(認知症対応型共同生活介護)		
事業所名	のぞみの里		
所在地	長野県木曾郡木曾町福島5569		
自己評価作成日	平成26年9月5日	評価結果市町村受理日	平成27年3月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成26年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人のできることを探しながら、調理、掃除、洗濯等の日常生活の得意な分野での活動が出来るように取り組んでいます。利用者のほとんどの方が歌が大好きなので、毎日、歌を歌って楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の子どもを保育する場としての利用があり、利用者にとっては日々の暮らしの延長として、あたり前の生活が出来ている。地域とのつながりを大切に、地域と共にあり、地域にとっても有益となる事業所作りを努めている。元気づくり支援事業が最終年になっているが、利用者が歌を好きであることをテーマにして、歌声喫茶を開催してきている。利用者の重度化、事業所の維持管理、別棟への保育所開設など課題を抱えてはいるが、運営推進会議のあり方、契約書や重要事項の理解しやすい工夫、地域との交流や貢献など事業に対する真摯な取り組みは高く評価したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域に根ざした施設でありたいとの思いは職員それぞれにあるが、「理念」をしっかりと共有でき実践につなげられているとはいえない。</p>	<p>これまでの理念を検証し、新たにNPO法人としての理念を平成26年5月に確立し、地域と共に歩むこと・住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことを掲げている。事業所に掲示して職員や地域の方への共有化を図っている。</p>	<p>理念の浸透度が弱いので、パンフレットやのぞみの里ニュースへの掲載、ケアプラン作成時に理念との整合性を確認するなど日常生活の中で理念が話題となるよう取り組まれることを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>祭り等地域の行事にはできる限り参加している。また、地区内の清掃作業や防災訓練にも積極的に参加している。</p>	<p>理念に地域に根差した事業所作りを掲げ、中・高生の職場体験・傾聴などのボランティアの受け入れ・地域行事への参加など地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>十分な取り組みはできていないが、相談に来た方には丁寧に対応している。今年度も地域の防災訓練と一緒に参加した</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催し、介護状況の特徴・課題、ヒヤリハット等で報告している。その中で委員に理解をいただくとともに、意見・指導を受け業務に反映するようにしている。</p>	<p>年6回開催され、有識者も含め充実した委員構成で事業所の現状をありのままに報告し、委員からは「地域交流」などについての意見・評価も頂いている。提起された課題は業務の中で速やかに改善するよう努めている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>困難事例があるときは相談にのって頂いている。2か月に1回の木曽病院で開催される福祉・医療の連携会議に参加している。今年度も保険者主催の研修会に参加した。</p>	<p>関係市町村や保険者である広域組合との連携は良好であり、運営推進会議への参加を頂いている。困難事例等の相談にも応じて頂き、協力関係作りに努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全職員に周知出来ている。現在利用者の状態は落ち着いており、必要性はないが、必要時には家族とも説明相談して承諾を得てから行うことになっている。	研修会などを通して拘束しないケアについては職員の認識の共有化は出来ており、玄関や2階出入口の施錠はなく、利用者は落ち着いた暮らしをしている。身体拘束については契約書などにも明文化している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	制度についてわかってはいるものの、現場で職員が利用者に対して不適切な言葉がけをしているのに遭遇した時は、別の場所で指導するようにしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を作り、職員会で報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を基に説明し、理解、納得してもらっている。今後契約締結者の予定あり。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの更新時等に意見を伺い、反映するようにしている。9月に家族会懇談会を開催の予定で参加を募っている。	思いや意向の聴取については、利用者は日々の暮らしの中で、家族には家族会や懇談会、面会時に行い、それらはケアプラン作りや生活の中に活かしている。意見を言える工夫としての家族との信頼関係作りは月1回、一人ひとりの暮らしの様子を伝えるたよりを送付し、また、「のぞみの里ニュース」を発行している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会を行い、職員の意見を聞くようにしている。随時気が付いたことは言える体制にある。	良好なコミュニケーションがあり、意見を言いやすい雰囲気を持っている。職員会の場や主任への相談などで職員の意向や意見を吸い上げるよう努めている。職員のやる気や向上心を引き出すため、研修の定期的開催、外部研修への積極的な参加促進や資格取得への支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい財政状況であり、わずかな手当ではあるが特別手当を支給することもある。最低、年に1回の外部研修を受けられる様な体制を整え、研修日も組み込んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は職員掲示板に掲示し、最低、年に1回の外部研修を受けられる様にシフト調整を行った。参加費も1人3000円まで法人で負担した。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合、木曽病院、宅老所・グループホーム連絡会等が主催する研修に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が安心できるような関わりをもち、本人の言葉やしぐさの中に、いろいろな気づきもてるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを行いながら努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行いながら努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることに、得意なことを見極めながら、掃除、調理、洗濯干し等を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り受診に付き添ってもらったり、帰省が出来る様にしてきた。月1回は担当職員が「おたより」で本人の様子を手紙で伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者とのコミュニケーションの中から、情報を入手し、思い出話をしたりしている。歌に合わせて踊りを踊ってくれる機会もある。	友人が訪ねてくる方、馴染みの美容院や商店に行かれる方もいる。広い地域からの利用となっているので、必ずしも事業所の近辺に馴染みの場所があるとは限らないため、馴染みの関係継続は難しい。思い出話などを通じて懐かしさに浸るケアも取り入れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中利用者はフロア内で多人数で過ごしており、利用者同士の関わりの中に些細なトラブル等はみられるも、孤立するような人間関係はない。些細なトラブルで収まるよう職員が間に入り調整することもある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除者が8月末であった。退所後の本人の様子を家族に連絡して聞いたりしていきたいと思っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図りながら努めてきた。表情に変化がなかった利用者が、職員の声に反応するときかすかな発語と相手の目をしっかり見たり、笑顔で応えてくれる回数が増えた。	お茶や食事の時間など寛いだ時に利用者と一緒にゆっくり話し、思いや意向を聞いている。話したいような表情をすぐ察したり、職員から話しかけて思いを引き出したり、回想法を活用して利用者が進んで話したすのを待つなど利用者の暮らしに対する思いを聞き出すよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの今までの暮らし方について把握するよう努めているが、職員間でばらつきがある。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所して間もない利用者はいないので状態の把握はできているが、現状有する力の把握が弱い。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングやカンファレンスを行いながら取り組んでいる。家族が来所時には施設内での様子を伝え、家にいたころの様子を聞くなどしている。	利用者や家族の意向を踏まえてケアプランを作成し、3か月に1度、実施状況を把握し、評価・見直しを行っている。随時の見直しも行われ、現状に即した計画となっている。	実施状況の把握は様式等を検討し、評価・見直しが行い易くなるよう工夫されることが望まれる。提供するサービスは利用者や職員にも分かり易く、取り組み易くなるよう、項目が多くならないように調整することを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に記入しているが、介護記録としての記述が明確でないものもあり、情報共有しにくい時もある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族から申し入れがあった時柔軟な支援に心がけて対応している。面会に来た家族と食事や買い物に出かける利用者もいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌の好きな利用者が多く、毎日歌う機会を取り楽しんでいる。地域の方と共に歌を唄う、歌声喫茶を3回企画し、11月に開催する残り1回が予定にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>出来る限り家族に付き添ってかかりつけ医に受診している。出来ないところは職員が付き添い支援している。</p>	<p>利用者や家族の希望するかかりつけ医となっているが、多くは事業所の協力医療機関と同じである。受診の付き添いは家族になっているが、職員の代行が多い。受診の際の情報提供や受診結果の共有化も出来ており、医療機関・家族・事業所との連携は良好である。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>早期発見に努め、異常を感じた時はNSに報告し指示を仰いでいる。特に排便には注意を払っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報の提供、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けての指針を見直し、同意書の再提出をしてもらっている。</p>	<p>重度化や終末期対応についての指針が明文化されており、家族等との合意も取れている。医師との連携もあり、家族等の意向に副える環境が整備されている。職員は重度化に対応出来る介護技術の習得に取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日々の業務の中で、利用者の関わりの中で急変した場合を考え、NSに適切な対応方法を研修してもらい、身に着けるよう図っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている</p>	<p>地区の避難訓練に利用者と共に参加したり、非常食の実践を地域の方も交えて実践して、非常時の対応に役立てられるようにしている。</p>	<p>地域の協力を得て防災訓練を行い、防災備品や備蓄の整備、予防対策の日頃の点検など災害への十分な認識が出来ている。運営推進会議より防災訓練の詳細な評価が報告されており、改善課題も提起されている。</p>	<p>夜間想定訓練、2階からの避難方法、消防車到着までの時間に出来る避難のあり方、スプリンクラーの効力など関係機関と十分に検討し、実践的な訓練となるよう取り組まれることを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力はしているが、時として口調が強くなってしまいう場面もあり、その時々で注意することもあった。	契約書に「権利を尊重し、礼節と尊厳を持って接する」とあり、利用者と家族等に明確に約束しており、介護の場で実践するよう努めている。日々の介護での言動のチェックは管理者等が行い、都度注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図ることを大切にしたいと思っているが、まだまだ不十分である。今後の課題として取り組んでいきたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが、職員側の都合が優先されることがあり、今後の課題として取り組んでいきたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみへの配慮はしているが、その人らしい所までは行きわたっていない人もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前に比べると利用者の参加も増えてきたが、担当する職員によって一緒に行なう事に差がみられる。	調理は、下ごしらえから食器拭きまで利用者の出来る範囲で職員と一緒にやって行っている。利用者の希望を取り入れて献立を作成し、個人に応じた食事(ミキサー・きざみなど)対応もしている。職員と利用者が一緒に食事を摂り、会話を楽しみながらの食事風景となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については毎日記録を付け注意している。場合によっては本人の状態に合わせた時間に食事を食べていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後の口腔ケアをしていなかったが、食後は行なうように改善してきた。拒むことがある場合は、タイミングを見計らって対応している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	漏れるから吸収量の多いパットではなく、その人のパターンを把握し誘導するようにして、排泄処理ではなく、ケアになるように努力しているが、まだ時間がかかりそうだ。	トイレを利用した排泄をケアの基本とし、排泄記録から把握したパターンに沿って、さりげないトイレ誘導や声掛けをしている。排泄や入浴は作業になり易いが利用者の心に寄り添い、観察力を深めたケアになるよう努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は重視しており、便秘にならないように、早めの対応をするようにしている。しかし、薬に頼る部分がまだ多い。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で午後入浴になってしまっている。しかし、無理強いをしないようにお誘いが出来、ゆっくり入ってもらえるように余裕を持った入浴にしている。	入浴は1人週2回、午後に行っている。利用者の想いに副って利用日を変更することもあり、ゆっくり楽しめる入浴となるよう取り組んでいる。長湯・熱い湯など個人の好みも取り入れたり、冬期の乾燥予防の入浴剤利用など、利用者が自ら望み、気持ち良く入浴出来るよう努めている。リフト浴もあり重度者の対応も出来ている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や睡眠の様子に合わせて対応するようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	拒否のある利用者に副薬に混ぜていたが、食後にきちんと飲ませる努力をして改善した。現在の状態をDrに伝え、服薬を減らし、歩行が安定した方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることを見極め、役割を持てるように努めている。誕生日には本人の希望献立を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけては天気の良い日は、散歩に出かけた。春はグループに分かれてドライブをしながらお花見をし外食をした。秋は昼食を外食店でとることを計画している。	地域住民と挨拶を交わす事業所周辺の散歩やグループを作ったの計画的外出(花見・紅葉狩り・文化祭)など気分転換や五感の刺激となる機会作りに努めている。今年は数名の方が県知事選挙に出掛けた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しくなっているため預かり金として法人が管理している。必要に応じ、一緒に買い物に行き支払いをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は対応しているが、あまりする人が居ない。プレゼントを送ってきてくれた時は、職員が支援しながらかけるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に清潔と整理に努めている。毎朝、クイックルワイパーを使って掃除をしている。	利用者は歌が好きであり、ピアノやカラオケセットが設置されている。季節に応じた利用者の貼り絵が飾られ、居間兼食堂は台所と一体になっており、調理の音や匂いがして、お手伝いも気軽に出来て、あたり前の生活空間となっている。浴室やトイレも十分な広さがあり、清潔で整理整頓が行き届いている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを持って来てもらっている。	寝具・家具・衣類・写真など利用者の思い思いの物が持ち込まれている。入口には利用者個人の写真があり、部屋を間違わない工夫も施されている。木曽川に面した部屋もあり、日々懐かしい風景が眺められる場所になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは「お手洗い」と表示し、わかりやすくしている。施設の広さに制限があり、安全には努めているが、多様な事はできない。		

目標達成計画

作成日：平成26年12月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 27	提供するサービスが利用者や職員にも分かり易く取り組み易くなるよう、項目が多くならないよう調整し、評価・見直しが行い易くなる工夫が必要。	日々の暮らしの中で快適に過ごせる関係づくりやチームワークを行っていく。	それぞれの職員が利用者様に対し、日々の様子・気付きを察知し、記録に基づきミーティングやカンファレンス等で共有しながら、皆が分かり易い計画を立てていく。	12ヶ月
2	35	災害対策について、関係機関と十分に検討し、実践的な訓練となるよう取り組むことを期待。	日常の防災点検や防災訓練に積極的に参加し災害時の防災意識を高める。	月一度の防災点検や訓練以外でも職員会等で、防災・避難等について話題に出し、日頃から防災に対する意識を高められるようにしていく。訓練想定の内容をより身近なものにして訓練に臨めるようにする。	12ヶ月
3	1	のぞみの里理念の浸透度が弱い。	理念にのっとった利用者様との関わりをつくる。	理念を職員の目につく場に掲示し、朝会や職員会で理念を再認識する時間をつくる。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。